

わかみやだより

わかちあい、かんがえ みつけて、やってみよう

主体性をどう育てるのか(どう取り戻すか)

本校教育目標にも掲げております「主体的に行動する力」の育成について考えてみます。

「主体性」とは、生まれたときから誰もが持っている力で、自発的な意思に基づき動くことです。よく似た言葉に「自主性」がありますが、これは自ら進んで(指示されたことを)行うことです。子どもたちの自発的な意思のあることがポイントです。主体性は行動を制限されたり、命令されたりする中で少しずつ奪われ、次第に周囲への依存心が強まります。何でも人のせいや環境のせいにする言動も、依存心の表れといえます。

では、子どもたちがもともと持っていた主体性を取り戻すために、次のように考えてみてはどうでしょうか。

「主体性を取り戻すには、大人が口や手を出すことを控え、子どもたちに自己決定の機会を増やすことです。」
「子どもなりに考えて行動し、その結果を自分で振り返って、試行錯誤を繰り返す体験を何度も積ませることではか主体性は取り戻せません。」(「教育について工藤勇一先生に聞いてみた」2024.Gakken より)

つまり、大人の役割は子どもたちが自己決定することを支援し、「失敗しても大丈夫」と思えるような心理的に安全な環境を作ることです。学校では、「どうしたの?」「どうしたいの?(どうしたかったの?)」「何かできることはある?」と子どもたちに問いかけ、支援したいと思えます。教職員一同研修を重ねながら、保護者の皆様、地域の皆様と連携し、子どもたちの主体的に行動する力を育成して(取り戻して)参りたいと思います。どうぞ、よろしく願いいたします。

若宮小学校は誰のもの?

「若宮小学校は誰のものですか?」始業式に子どもたちに尋ねました。「若宮小学校は児童、みんなのもので。だから、若宮小学校のみんなが若宮小学校をつくるのです。」「困ったときには、先生たちや、地域の方、おうちの方などたくさんの大人が力を貸してくれます。一人ひとりが『いいね 若宮』と思える学校を作っていきましょう。」と話しました。

新年度を迎え、子どもたちは新しいクラス、新しい教室、新しい先生と活動しています。その中で、自分のできることを見つけ、行動しています。

子どもたちには、学校のことを自分事として考える力を身につけ、そして、これからの社会課題を自分事として捉えて解決しようとする大人になってほしいと思います。

家庭訪問のご対応ありがとうございました

お忙しい中、お時間をいただきありがとうございました。短い時間ではございましたが、保護者の皆様と顔を合わせてお話しさせていただいた貴重な時間となりました。学校へご質問等がございましたら、いつでも連絡をいただけたらと思います。また、毎学期末には若宮トークデーを設けておりますので、ご活用ください。

若宮小学校のちょっといい話

始業式の日、「春休みに河原で遊んでいたとき、みんなでゴミ拾いをしたよ。」と4年生が教えてくれました。

また、「校庭の草抜きをしていたら捨てるのを手伝ってくれました。」と学校運営協議会の会長さんから連絡をいただきました。先生方が放課後に草抜きをしていたら手伝ってくれた5年生と1年生がいたようです。

地域の方より「6年生の女の子が、3歳の子どもと遊んでくれてとても嬉しかったです」とお電話をいただきました。子どもたちの地域での様子をお知らせいただきありがとうございました。

今年度も、学校の様子を学校ホームページのわかみやっこぶろく、お昼の校内放送、学校だより(わかみやだより)等で紹介させていただきます。